

# 平野ロジスティクス

## 「+8」11月運行開始へ

### ULD14台を搭載可能

平野ロジスティクス(本社=神戸市、田中英治社長)は、大型トラックよりULD3コンテナを8台多く搭載できるセミトレーラー車「+8」(プラス8)の運行を来月1月に開始する。既に運行している「+7」の改良版。羽田-成田間のOLT需要に対応する方針だ。さらに、大型トラックよりULD3コンテナを1台多く搭載できるセミトレーラー車「+1」の増車を進めているほか、同2台多く搭載できるフル・トレーラー車「+2」も、需要に応じて増車を検討する。各種トレーラーとトラックの組み合わせにより各種需要に柔軟に対応するとともに、顧客のコスト削減、環境負荷低減に貢献する。

### 「+1」の増車も計画



益子研一 部長

今年4月に運行を開始した新型セミトレーラー車「+7」は、トレーラー部分を2層構造としている。荷台の上段部に96パレット4台もしくはULD3コンテナ8台を搭載できる。下段部にはULD3コンテナ5台、もしくはALFコンテナ2台+ULD3コンテナ1台、あるいはALFコンテナ1台+ULD3コンテナ3台を搭載できる。ニーズに応じてさまざまな組み合わせに対応できることが特徴だ。

上段部へのコンテナ搭載のためにパワーゲートを搭載しているほか、ベルトコンベヤーにより上段部の移動を自動化している。貨物上層の状況に合わせた仕様としており、現行の上層体制での運用が可能だ。

今回、「+7」に改良が加わる形で「+8」が開発された。「+7」の開発以降に、特殊車両の通行許可基準が緩和されたことを受けて、トレーラーの全長を60センチ延長したことがベースにある。

「+7」の下段部にULD3コンテナ5台を搭載する際には、4台は縦位置で搭載できるが、最後に搬入する1台は横位置での搭載となっている。トレーラーの延長により、5台とも縦位置で搭載が可能になり、ULD搭載作業が効率化された。

さらに「+7」の上段部はULD3コンテナ換算で8台の搭載となっているが、「+8」は上段部にULD3コンテナ9台の搭載が可能になった。

96パレット1台を上段部に搭載した際には、上段部へのULD3コンテナ6台の搭載は変わらないもの

### 国内航空貨物へ16年度上期

## 3%減の44万3000トン

本紙集計によると、2016年度上半期(4~9月)の国内航空貨物輸送実績は前年度比2.6%減の44万3036トンだった。各月いずれもマイナスとなるなど

概況は、北海道9.6%減、関東・東北1.3%減、中部18.0%減、近畿・中国0.4%減、中部3.5%増、近畿・中国四国5.0%増、九州・山口4.4%減、沖縄5.6%減。

行する。需要を踏まえて、それ以降の導入を検討する。一方、平野ロジスティクスは現在、「+1」を10台、「+2」を2台保有している。「+1」は首都圏・中部、関西といった長距離のOLT、「+2」は羽田-成田間のOLTを中心に投入している。

同じ羽田-成田間のOLTにおいても、コンテナ対応に重点を置いた「+7」に対して、「+2」はパレット対応に強みがある。運行路線、ULDの形状、顧客のニーズに応じてトレーラーの使い分けが可能であることが特徴だ。トレーラーの増車に伴い、関東支店(千葉県成田市三里塚)の駐車場も拡大した。

平野ロジスティクスは需要を踏まえて「+2」の増車も計画している。また「+1」については11月に1台、12月に1台の計2台を増車。既存車両と併せて12台体制とする計画だ。11月に導入する「+1」は静岡営業所(静岡県袋井市)に配備。12月に導入する「+1」は関西支店に配備する。

「+7」と同様、「+8」は羽田-成田間のOLTに投入する。既に「+7」はさまざまな航空会社を利用していている。「+8」は、日本航空の専用車両として運行を継続する。

各拠点への「+1」の配備の背景には、羽田空港の機能強化、国際線発着枠の増加が背景にある。2016年冬スケジュールから、羽田空港発着時間帯でも米羽田空港発着時間帯でも米便(002便)の運航時刻は、19時45分発、12時5分着(いずれも現地時間)前日に成田へ搬入する貨物向けの羽田向けトラック便はJL9950便として運航を継続する。

JL9964/9950便の運航時刻は次のとおり。朝から昼間に伴って、成田発羽田向けトラック便を増設する。当日搬入貨物向けに16時成田発のJ

国路線の開設が可能になり、米国線の発着枠も増加する。平野ロジスティクスは例えば、今後、西日本方面で前日夕方に通関された貨物が羽田空港発着時間帯の米国路線に搭載されるケースが増加すると見ている。こうした需要に対応するために、関西支店での「+1」の増車、静岡営業所への配備を計画している。

静岡営業所への配備については、増加が予想される西日本から首都圏向けのOLT需要に伴う車両のバックアップ体制の強化、さらには東日本-西日本間の継続輸送への対応も考慮している。長距離輸送において、中継拠点でトレーラー部分を切り替えることで、ドライバーは発地に戻ることでできるなど、労働環境の改善につながる。

益子部長は「コンテナやパレット、バラ積みといった貨物形態、あるいは羽田-成田、東日本-西日本間といった輸送距離など、お客さまのニーズはさまざまに多様化している。ニーズに、しっかりと応えようとすると、コスト削減、環境負荷低減に貢献することが重要になってくる。安全と品質をベースに、トラックとトレーラーを含む車両体制の充実を図り、物流効率化を図ってきたい」と話す。

### 日本航空 SFO線用

#### トラック便を新設

日本航空は冬季スケジュール開始時点の10月30日から、羽田-サンフランシスコ線の運航時間帯が深夜早朝から昼間に伴って、成田発羽田向けトラック便を増設する。当日搬入貨物向けに16時成田発のJ

### 羽田空港発着国内航空貨物実績

2016年9月		ANA	JAL	合計
羽田	重量(%)	16,104	14,048	30,152
	前年同月比	97.2%	99.3%	98.2%
羽田	重量(%)	17,132	13,365	30,497
	前年同月比	92.4%	92.4%	92.4%
航空会社	重量(%)	33,236	27,413	60,649
合計	前年同月比	94.7%	95.8%	95.2%

2016年4~9月		ANA	JAL	合計
羽田	重量(%)	84,973	79,817	164,790
	前年同月比	99.1%	99.6%	99.4%
羽田	重量(%)	95,381	81,961	177,342
	前年同月比	94.1%	95.8%	94.9%
航空会社	重量(%)	180,354	161,778	342,132
合計	前年同月比	96.4%	97.7%	97.0%

### 羽田国内へ9月 5%減の6.6万トン

本紙集計による羽田空港2016年9月の国内航空貨物輸送量は、発送が前年同月比1.8%減の3万1

航空会社ごとの9月実績増減率は、全日空の発送が2.8%減、羽田着が7.6%減、合計が5.3%減。

### DBシエンカー ルフトハンザカーゴ

#### 提携強化でCO2削減

DBシエンカーとルフトハンザカーゴ(LCAG)は戦略的なパートナーシップを提携し、CO2排出量の削減を進めている。両社は燃費効率の良い機体・エンジンへの変更や文書のデジタル化を進めるなど、5年間でCO2排出量を1万ト削減することに成功した。2020年までにさらに1万トの削減を目指す。昨年、両社が合意した「二酸化炭素削減協定(Carbon Reduction Agreement)」

の強化に基づくもの。LCAGは燃費効率の優れたB777F型機を導入している。同社の貨物機は平均して、100kgの貨物に対し100kg以下の燃料使用が平均1.89倍で済む。また、コンテナを軽量化し、航空輸送に係る文書のデジタル化を進めている。LCAGのベティーナ・ジェンセン環境対策責任者は「当社は多くの分野の先駆者であり、技術革新で軽量化や燃費低減を促進していく」と述べた。

DBシエンカーの環境対策担当のアンドレア・ドロシア・シヨーン氏は「当社のCO2排出量の40%が航空貨物輸送によるもの。物流業者として、輸送で発生するCO2排出量について特に責任を負っている」とし、物流業界における削減の重要性を示した。

### 成田-アブダビ線 12月からB787型機

エティハド航空は19日、成田-アブダビ線の機材を更新すると発表した。12月

エティハド航空は19日、成田-アブダビ線の機材を更新すると発表した。12月

日航の発送が0.7%減、到着が7.6%減、合計が4.2%減。

上期の両社合計実績は、発送が前年同期比0.6%減の16万4790トン、到着が5.1%減の17万7342トン、合計が3.0%減の34万2132トン。

航空会社ごとの上期実績増減率は、全日空の発送が0.9%減、到着が5.9%減、合計が3.6%減。日航の発送が0.2%減、到着が4.2%減、合計が2.3%減。

9月および上期実績の詳細は表のとおり。

機を投入する。現在、同路線はデリー-運航している。

国際空港上屋

イベリア航空の貨物受託を開始

国際空港上屋(IACT)は19日から、イベリア航空の輸出入貨物の受託を開始した。取り扱い場所などは次のとおり。

▲輸入受け付け・問い合わせ

受付場所=成田国際空港内 第1貨物ビル105号 (IACT E棟) VNA CCS CODE=1MW UJ▽問い合わせ先=電話0476-32-7382 / ファクス0476-32-1162

▲輸入受け付け・問い合わせ

受付場所=成田国際空港内 輸入共同上屋ビル (IACT A棟) VNA CCS CODE=1MW 40▽問い合わせ先(貨物の引き取り) 電話0476-32-18413 / ファクス0476-32-4595、(輸入書類の引き取り) 電話0476-32-6328 / ファ